

Shimotsuke English Journal (SEJ)

Vol. 72



R3.11.12

今月のキーワード

「思考・判断・表現」の評価

問題づくりの工夫

中学校の定期テストでは、主に「読むこと」「書くこと」の問題を通して、「知識・技能」や「思考・判断・表現」の観点別評価をされていると思います。今回は、「読むこと」を中心とした発問づくりや「書くこと」を中心とした課題づくりを工夫することで、思考力・判断力・表現力等を身に付けるための問題づくりの工夫について考えてみます。



発問づくり（「読むこと」を中心に）



先月号では、「概要を捉える力を育むための活動」として、「5W1H」を意識して、ペアで発問し合いながら読むことについて紹介しました。先生方も、授業中発問を考えることは多いと思いますが、その発問文を「知識・技能」「思考・判断・表現」の観点に照らし合わせて考えてみましょう。



「本文の内容を正しく理解し、問われたことに対して適切に答えることができる」ことは「知識・技能」と捉えることができます。では、「思考・判断・表現」を問う問題にするためには、どのように工夫すればよいでしょうか。例えば、下の本文を読んでみます。

<NEW HORIZON3 教科書 P55 より>

On May 26, 2016, a man visited Hiroshima and gave a speech at the city's Memorial Park. He began, "Seventy-one years ago, on a bright, cloudless morning, death fell from the sky and the world was changed."

The man's name is Barak Obama. He became the first sitting U.S. president to visit Hiroshima. It meant a lot to the city, to Japan, and to the world. Before the speech, Obama visited the museum there.

上記の本文に対して、例えば次のような発問が考えられますが、違いは何でしょうか。

1 When did Barak Obama visit Hiroshima?

2 Why does his visit mean a lot to Japan?

1の答えは1つに絞られるのに対し、2の答えは文中の言葉を使って様々な答え方が想定されるとともに、文中の表現にこだわらず、自分の考えを追加していくことも考えられます。子どもたちの多様な思考を引き出すために、答えが1つであったり、Yes/Noで答えることができたりする選択問題 (closed question) だけでなく、多様性を引き出す (open question) を効果的に取り入れてみてはいかがでしょうか。

採点の際、「どのような力を評価するか」という基準を明確にしておきましょう。

「自分の考えを伝える」（「思考・判断・表現」の評価）場合は、単数形・複数形などの間違いは減点の対象としないなど、先生方間で共通理解を図っておいてください。



課題づくり（「書くこと」を中心に）



「話すこと」「書くこと」における「思考・判断・表現」の評価規準を作成する際のポイントは「コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて、話したり書いたりして表現したり伝えあったりしている状況を評価する」

とされています。（「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料より）



「自分の考えや気持ち」を表現する英作文の問題は、これまでも定期テストなどで多く出題されており、「思考・判断・表現」を評価する問題として扱われてきたと思います。

例：「学校に ALT の先生が新しく赴任しました。自分の学校のよさについて、ぜひ知らせたいと思うことは何ですか。紹介文を書きましょう。」

「来月海外から転校してくる友達から問い合わせのメールが届きました。メールを読んで、友達が不安にならないよう、返信文を書きましょう」



これらは、比較的場面設定がしやすい課題として挙げられます。



一方、短文や語彙の「穴埋め問題」についてはいかがでしょうか。「読むこと」と同様、「思考・判断・表現」の力を問う問題にするために、どのように工夫できるか考えてみましょう。

例えば、If を学習した際、

If it is rainy tomorrow, you should ().



文の意味が通るように、() に当てはまる語を自由に書きましょう、という問題を出題したとします。雨の時は、家に居る (stay home)、本を読む (read books) など、おおよその答えが予想されます。

↓
実際、テストなどで同じような解答をいくつも見ることはないでしょうか。そこで、以下のように選択肢を増やすなど、**文脈の流れが意識できるように**出題方法を工夫してみます。

If it (is/is not) rainy tomorrow, I will (). (However/So) I will ().

例えば、このように選択肢を増やしたり、**文脈を意識できるような接続詞**を入れたりする工夫をしてみてもいかがでしょうか。**自己決定する場面が増えることで、子どもたち一人一人の思考が深まり、書く内容の幅も広がります。**



例：If it is not rainy tomorrow, I will go hiking. So I will go to bed before 10:00.

If it is rainy tomorrow, I will not go to my uncle's house. However, I will call him because tomorrow is his birthday.

※先生方も、実際に書いてみてください。



「自分の伝えたいこと」を書くことで、個性や多様性が生まれます。

その情報を交換することで、新たな気付きが生まれます。

他者と比較してみることで、自分自身の振り返りにつながり、

修正する、再考するなどの自己調整力が育っていきます。

